

プロジェクト進捗管理シート

方針3

「人」と「知」の基盤づくり

8 教育再生プロジェクト

～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～

総括マネージャー

教育長

目 標

子どもたち一人ひとりが、学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材として育つとともに、県民誰もが生涯にわたる学びを通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができる教育県をめざします。

総 合 分 析

良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成をめざし、6つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標の進捗状況は、12項目のうち、10項目は「順調」、1項目は「概ね順調」、1項目は「努力を要する」となっています。

小学校の学校満足度の指標が「努力を要する」となりましたが、90%を超える高い割合を維持しています。

また、昨年度の評価では「努力を要する」結果となった中学校の学力に関する指標については、目安値を上回って「順調」に転じており、30人規模学級(35人以下学級)を活用したきめ細かな指導や学力向上のためのPDCAサイクルによる授業改善など、各校における取組の成果が表れつつあるものと考えられます。

学校運営への参画、学校支援、学校関係者評価を一体的に実施する「信州型コミュニティスクール」の実施校割合の指標も順調に推移しており、学校と県民の協働による地域に開かれた学校づくりの取組が広がっています。

さらに、体力の向上、就業体験活動の推進、英語コミュニケーション能力の各指標も順調に推移しています。

これらのことから、プロジェクトの目標である「学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材」の育成に向けた取組は、概ね順調に推移していると考えられます。

～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

子どもたちが個性や能力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材として育つためには、基礎的・基本的な知識・技能に加え、実社会で必要となる実践力やコミュニケーション力を身に付けることが必要です。

児童生徒の学力に関する指標は目安値を上回っているものの、全国学力・学習状況調査においては中学生の「活用する力」に課題が見られる結果となっています。このため、PDCAサイクルにより児童生徒の学力実態を把握し、学習内容を確実に定着させる学力のスパイラルアップや、新たな家庭学習モデルの構築に引き続き取り組むとともに、新たに「学力向上フォーラムながの」を開催し市町村教育委員会や教員の意識の高揚を図るなど、学力向上に重点的に取り組みます。

また、グローバル化する社会の中で、「信州に根ざし世界に通じる人材」を育成するため、グローバル人材の育成、ICTを活用した教育の充実、地域を理解しふるさとへの誇りや愛着を育む「信州学」の推進により、21世紀型の学力を伸ばす教育に取り組みます。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗
 ○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない
 ・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
学校満足度(小学校)	目安値	%		90.7	91.0	91.3	91.6	92.0
	実績値		90.4	90.7	90.7			
	進捗区分			順調	努力を要する			
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、児童の実態を踏まえたきめ細かな指導や児童が分かる授業を目指した授業改善が進んできており、実績値は昨年度と同様に推移していますが、目安値よりわずかに下回っています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	・学ぶ喜びや学校生活の楽しさを感じられるよう、引き続き児童が認め合える学級づくりや分かる授業の実施						
【関連アクション】 アクション1		・地域に開かれた学校づくりの推進						
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
学校満足度(中学校)	目安値	%		86.5	87.3	88.2	89.1	90.0
	実績値		85.7	86.6	87.0			
	進捗区分			順調	概ね順調			
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制や「未来を拓く学力向上事業」等により、生徒の実態を踏まえたきめ細かな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善が進んできており、実績値は概ね順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	・人間関係を大切にしたい学級づくりの充実						
【関連アクション】 アクション1		・学力の定着を目指し友と考える学習や個に応じた指導の充実 ・保護者・地域と連携した教育活動の一層の推進						
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
学校満足度(高等学校)	目安値	%		76.2	77.2	78.1	79.1	80.0
	実績値		75.3	76.5	77.3			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の分析	各高校において、生徒の能力、適性、興味・関心や希望進路の多様化に対応するためのカリキュラム編成、双方向型授業の推進など、魅力ある高校づくりに取り組んでおり、目標達成に向け順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	・知識・技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した授業改善の取組						
【関連アクション】 アクション1		・生徒の関心や進路に応じたカリキュラムの編成						
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合(小学校)	目安値	%		62.4	63.1	63.7	64.4	65.0
	実績値		61.8	64.7	65.3			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の分析	学力向上のためのPDCAサイクルの確立が進み、各校で授業改善の意識が高まり、一人一人の児童に応じたきめ細かな指導が行われてきています。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	・話し合う活動や説明する活動を授業の中に位置付けるとともに、授業のねらい達成の「みとどけ」を大切にする取組を推進						
【関連アクション】 アクション1		・家庭学習の内容や方法を見直し、新たな家庭学習モデルの構築・普及						

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	目安値	%		57.2	57.9	58.6	59.3	60.0
	実績値		56.5	54.5	58.1			
	進捗区分			努力を要する	順調			
	進捗状況の分析	学習内容の習得状況を確認しながら確実に定着するまで指導する仕組みづくりを進める「学力スパイラルアップ事業」などに取り組み、H26年度の進捗区分は「順調」となりました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上フォーラム」の開催などにより、各学校における学力向上の取組を推進 家庭学習の内容や方法を見直し、新たな家庭学習モデルの構築・普及 						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(小学校)	目安値	%		58.4	58.8	59.2	59.6	60.0
	実績値		58	59.7	59.5			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の分析	子ども同士の学び合い(グループ学習、討議形式等の参加型の授業)の機会が増え、知識技能を活用する力や課題を探究する力の育成が図られています。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 30人規模学級の良さを生かした、子ども同士の学び合いや、実験・実習、体験的な活動の充実 児童生徒の科学や自然に対する興味・関心を高め、「伸びる力」をさらに伸ばす取組を推進 						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	目安値	%		54.2	54.7	55.1	55.6	56.0
	実績値		53.8	52.3	54.7			
	進捗区分			努力を要する	順調			
	進捗状況の分析	学力向上ミーティング等で授業改善の具体例を示したり、知識・技能を活用する問題(チャレンジ問題)を拡充させて学校現場に提供するなど、活用する力の向上に取り組み、H26年度の進捗区分は「順調」となりました。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 30人規模学級の良さを生かした、子ども同士の学び合いや、実験・実習、体験的な活動の充実 児童生徒の科学や自然に対する興味・関心を高め、「伸びる力」をさらに伸ばす取組の推進 						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H22)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点の全国順位(小・中学校)	目安値	位		29	27	25	22	19
	実績値		31	29	27			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の分析	小・中学校の児童生徒の体力・運動能力は、ここ数年わずかに上昇傾向にあり、H26の実績値は目安値を達成しました。一方、中学生女子については、前年度より向上したものの全国平均を大きく下回る状況が続いており、重点的な対策が必要です。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 長野県版運動プログラムの活用を推進した、幼児期から楽しみながら体を動かして遊ぶ習慣の定着 各校で「体力向上プラン」を見直し、教育活動全体を通じた体力向上の取組を推進 近年減少傾向にある中学生女子の運動部活動加入率向上に向けた環境づくり 						
【関連アクション】 アクション1								

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
信州型コミュニティスクールの 実施割合(小・中学校)	目安値	%		3.0	30.0	50.0	75.0	100.0
	実績値		0.0 (21.0)	13.6	36.5			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の 分析	市町村教育委員会や学校への訪問等を通じて、モデル市町村の成果など具体的な事例を基にした情報提供・啓発活動を実施し、学校と県民の協働による地域に開かれた学校づくりが順調に進んでいます。						
【目標設定理由】 全ての公立小・中学校で体制ができて いることを目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新規実施校を個別に支援するため、モデル市町村の経験者等をアドバイザーとして派遣 ・教職員・コーディネーター・ボランティア等の役割に応じた演習形式の研修を実施 ・信州型CSに対する理解を深め、導入の検討段階から支援するため、市町村教育委員会や学校を直接訪問 						
【関連アクション】 アクション2								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
就業体験活動を実施した生徒 数の割合(高校生)	目安値	%		60.0	70.0	80.0	90.0	100.0
	実績値		52.2	60.4	71.7			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の 分析	「ずくさせ修行」就業体験事業や大学等の上級学校見学会の中で職業観や勤労観の育成に取り組んでおり、順調に推移しています。						
【目標設定理由】 全ての生徒が実施することを目標に設 定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義や勤労観を養い、学ぶことの大切さを理解するとともに、将来を見通した生活ができるよう指導を充実 ・すべての高校生が卒業までに就業体験活動を行うことを目標に推進 						
【関連アクション】 アクション3								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
英語コミュニケーション能力水 準(英語検定3級レベル(中 学生))	目安値	%		26.0	29.0	33.0	36.0	40.0
	実績値		19.8	28.2	33.2			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の 分析	英語への興味、関心が高まったことで英語検定受検者が増え、実績値は順調に推移していますが、まとまった内容について話したり書いたりすることに課題が見られます。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で生徒の実態に応じた独自のCan-Doリスト形式での学習達成目標を設定し、生徒の理解と表現の能力を伸ばす授業の推進 ・言語活動の充実を意識した授業を通じ、コミュニケーション能力を育成 						
【関連アクション】 アクション4								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
英語コミュニケーション能力水 準(英語検定準2級レベル(高 校生))	目安値	%		33.0	35.0	36.0	38.0	40.0
	実績値		30.0	34.4	35.0			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の 分析	4技能のうち「話す」力の定着には課題がありますが、その解決を目指し、各高等学校で生徒が英語を使う活動を多く取り入れるなど、授業改善が進んでおり、順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・英語担当教員の研修を更に充実させ、生徒が授業で英語を使う機会を増やす等の授業改善の取組を充実 						
【関連アクション】 アクション4								

**アクション
1**

(学力・体力の向上と多様な学習機会の提供)

子どもたちの学力や体力を向上させるとともに、一人ひとりの個性に合った多様な学習機会を提供します。

【アクションの進捗状況】

30人規模学級編制を活用したきめ細かな指導や学力向上のためのP D C Aサイクルづくり、全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに学力向上に結び付く取組をまとめたリーフレットの作成・配布等に取り組み「基礎的・基本的な内容の定着度が全国平均よりも高い児童生徒の割合」は前年度より増加しました。

また、「長野県版運動プログラム」普及のため、教職員や地域の指導者を対象とした出前講座や児童生徒を対象とした実技講習会を実施しました。

さらに、障がいのある児童生徒が自立や社会参加に向けてその能力や可能性を最大限に伸ばすことができるよう、適切な教育の場と教育内容の充実を図りました。

主な成果

●「未来を拓く学力」の向上

P D C Aサイクルにより学力実態を把握し、確実に定着させる仕組みを構築

- ・基礎的・基本的な内容の定着度が全国平均より高い生徒の割合
小学校 H25年度：64.7% ⇒ H26年度：65.3%
中学校 H25年度：54.5% ⇒ H26年度：58.1%



中学生学び合い

●「長野県版運動プログラム」の実施 ～普及のための講座等を開催～

- ・キッズ運動遊び どこでもゼミナール（指導者向け出前講座）
⇒ 県内5会場で開催
- ・「体づくり運動」実技指導講習会（児童生徒向け実技講習会）
⇒ 県内19会場で開催



長野県版運動プログラムを活用した幼児の運動遊び

●特別支援教育の充実

- ・自立活動担当教員を増員：20人（※H29年度までに80人増員）
- ・自立活動教育を充実させる専門職員を配置：20人
- ・L D等通級指導教室を増設：（H25年度）13教室 ⇒（H26年度）18教室

●信州教育に多様な学びの場が誕生

- ・県内2校目、中南信では初となる公立中高一貫校「諏訪清陵高等学校附属中学校」が開校（H26年4月）
- ・発達障がいのある若者の教育を専門的に行う学びの場「長野翔和学園」が開校（H26年4月）



長野翔和学園開校式

●少子・人口減少社会に対応した活力ある学校づくりを推進

統合を契機に活力ある学校づくりに取り組む小・中学校（4校）に対して、新たな学校づくりの中核となる教員を配置

アクション 2

(地域に開かれた信頼される学校づくり)

コミュニティスクールなど、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。

【アクションの進捗状況】

学校運営への参画、学校支援、学校関係者評価を一体的に実施する「信州型コミュニティスクール」の普及を一層促進するための取組を実施し、県民との協働による開かれた学校づくりが進みました。

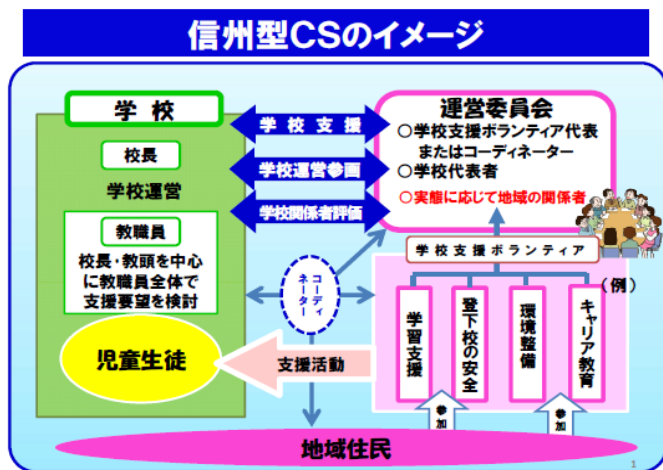
また、いじめ問題の克服に県民が力を合わせて取り組むため、「長野県いじめ防止対策推進条例」を制定しました。

さらに、「信州教育の信頼回復に向けた行動計画」に沿った取組を着実に推進しました。

主な成果

●信州型コミュニティスクール(CS)の取組を普及

「信州型コミュニティスクール」の普及を一層促進するため、モデル校の設置やコーディネーター等の研修、市町村・学校への訪問等を実施



信州型コミュニティスクールに
取り組む県内の公立小・中学校

実施校数(割合)

H25年度 76校(13.6%)

H26年度 202校(36.5%)

(目標 30.0%)

●「長野県いじめ防止対策推進条例」を制定

いじめ問題が深刻化し、大きな社会問題となっている中、児童生徒が抱える悩みや課題に県民が力を合わせ取り組むため「長野県いじめ防止対策推進条例」を制定

●「インターネットの安全な利用に関する共同メッセージ」を発信

子どもたちをインターネットの被害者にも加害者にもさせないために、県教育委員会とPTA連合会が共同メッセージを発信 (H26. 12)



県教育委員会とPTA連合会が共同メッセージを発信

●信州教育の信頼回復に向けた取組を着実に推進

「信州教育の信頼回復に向けた行動計画」 (H25. 7策定) に沿った施策を着実に推進
⇒ 全46項目実施・着手済み

**アクション
3**

(農林業体験など体験活動の推進)

子どもたちの社会性や自主性を育むため、小・中・高等学校で農林業体験、福祉体験、就業体験など様々な体験活動を推進します。

【アクションの進捗状況】

平成23年度に策定した「長野県キャリア教育ガイドライン」に基づき、家庭・地域・産業界と連携しながら、幼保・小・中・高の発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進しました。県立高校においては、「ずく出せ修行」就業体験事業などを通じ、生徒の職業観・勤労観の育成に取り組みました。

また、異年齢の児童生徒たちが共同して生活しながら通学する通学合宿について、実施に必要な知識やスキルを持つ「通学合宿リーダー」を養成するためのセミナーを開催しました。

主な成果

● 高校生の就業観・職業観を育成

就業体験活動を実施した生徒数の割合（高校生）

H25年度：60.4% ⇒ H26年度：71.1%（目標値：70%）



就業体験活動での農園実習

● 通学合宿リーダーの養成

通学合宿の実施に必要な知識やスキルを持つ「通学合宿リーダー」を養成するためのセミナーを開催（年間3回）

養成した通学合宿リーダー

H26年度：13名

通学合宿実施回数

H25年度：14市町村で延べ23回

⇒ H26年度：25市町村で延43回



通学合宿リーダー養成セミナー

**アクション
4**

(情報活用能力、英語コミュニケーション能力の向上)

時代の変化に対応できる人材を育成するため、子どもたちの情報活用能力や英語コミュニケーション能力の向上に取り組みます。

【アクションの進捗状況】

スーパーグローバルハイスクール指定校の運営や高校生の発信力育成講座など、グローバル時代に対応した「信州に根ざし世界に通じる人材」の育成に向けた取組を実施しました。

また、ICTを効果的に活用して生徒の学力や情報活用能力の向上を図るため、ICT活用に関する教員研修を充実させるとともに、県立高校における通信基盤の整備や情報端末機器を活用した新たな学習モデルの実践研究、特別支援学校へのタブレットPCの配置を行いました。

主な成果

● 英語コミュニケーション能力を向上

中学生：英語検定3級レベル

H23年度：19.8% ⇒ H26年度：33.2%（目標値：29.0%）

高校生：英語検定準2級レベル

H23年度：30.0% ⇒ H26年度：35.0%（目標値：35.0%）

●長野高校がスーパーグローバルハイスクールに指定

長野高等学校が、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る文部科学省事業「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」に指定



長野高校発表会 (SGH)

●高校生の発信力育成講座の実施

大学教授や海外経験のある大学生等が講師となり、フィールドワークによる探求活動やプレゼンテーションの実践を通じて、高校生の課題解決力・発信力・語学力を育成する講座を実施

●情報端末機器を活用した教育を推進

- ・ 県立高校にモデル校（3校）を設置し、電子黒板やタブレット端末等を活用したアクティブラーニングの推進など、21世紀にふさわしい新たな学習モデルの実践研究を実施
- ・ 特別支援学校にタブレット端末を各校に配置し、障がいの状況に応じた学習に活用
配置端末数（学校数）
H24年度:10台（5校） ⇒ H25年度:131台（16校） ⇒ H26年度:204台（全18校）

アクション 5

（高等教育全体の振興）

地域社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するため、県内の高等教育全体を振興するとともに、県立4年制大学を設置します。

【アクションの進捗状況】

「第3回産学官協働人材育成円卓会議」（平成27年2月開催）において、産学官協働で実施すべき人材育成の取組内容と、その実行組織である「信州産学官ひとづくりコンソーシアム」の設置が決定しました。

また、平成30年4月の開学を目指す新県立4年制大学の理事長予定者、学長予定者を平成26年7月に公表しました。平成26年9月には、県立大学設立委員会を設置し、教育課程や施設整備の検討を進めるとともに、新県立大学に関する意見交換会を開催し、平成27年3月には、県立大学設立委員会での検討を踏まえて、基本設計が完了しました。

主な成果

●信州産学官ひとづくりコンソーシアムを設置・運営

産学官協働で長野県の将来を担う人材育成に取り組むため、「信州産学官ひとづくりコンソーシアム」の設置を決定（H27年2月）

●新たな県立4年制大学の設置準備を推進

- ・ 理事長予定者、学長予定者の公表（H26年7月）
- ・ 新県立大学に関する意見交換会の開催（H26年10月）
- ・ 基本設計の完了（H27年3月）



理事長予定者の安藤国威(くにたけ)氏(写真中央)、
学長予定者の金田一真澄氏(写真右)



新県立大学(イメージ)

●県内大学進学のための入学金等給付事業を創設

意欲や能力が高いにもかかわらず、経済的な理由で大学・短期大学への進学が困難な生徒を支援するため、入学一時金相当を給付する奨学金制度を創設（H26年4月）

アクション 6

（生涯にわたる学びの環境整備）

生涯にわたる学びや学び直しができる環境整備を進めます。

【アクションの進捗状況】

生涯学習推進センターにおいて、「学びで紡ぐひとづくり」をテーマに、市町村の社会教育関係者や地域の実践活動の指導者のステップアップを図る研修を実施し、市町村が行う生涯学習や生涯学習を通じたまちづくりを支援しました。また、市町村の公民館と連携・協力して若者の自立をテーマとした講座を開催するなど、地域課題の解決に向けた取組を支援しました。

さらに、県立長野図書館において、公共図書館等との連携や県の取組に関連した企画展の開催など、情報発信力の向上を図るとともに、一般社団法人長野県経営支援機構との共催により、起業、経営に関する無料の相談会を開催しました。

主な成果

●生涯学習の指導者を養成

「県民協働による事業改善」の点検を踏まえ、生涯学習推進センターではH27年度から一般向けの内容を減らし、市町村が行う地域課題解決のための学習支援や県政の課題について学ぶ研修講座に特化して再編

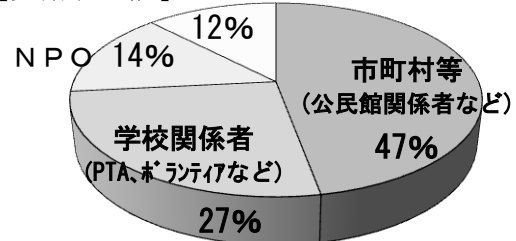


生涯学習推進センターの研修講座

○長野県生涯学習推進センター 研修講座受講者数（H26年度）

目標 1,400人 ⇨ 実績 1,780人

【受講者内訳】 一般



○市町村の公民館等の 生涯学習講座受講者数（H26年度）

目標 202,417人 ⇨ 実績 207,242人

●県立図書館における情報発信を充実

- ・県民の皆様にとって、身近でホットな話題をテーマにした企画展を開催
 - 「新聞の書評に載った本」（H25年度下半期、H26年度上半期）
 - 「すばらしき山々～『信州山の日』」
 - 「がんを知るーがん征圧月間」
 - 「温故知新ー読書の秋の新書まつりー」
 - 「2015ー節目の出来事ー」

